＜東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞＞

巡り巡って命を救う

矢吹町立矢吹中学校　３年　須藤　旭

「おばちゃん、施設入ったって。」

母親からそのことを聞いた時、私は衝撃で言葉が出ませんでした。幼い頃から面倒を見てくれていた親戚が、病気で施設に入ることになったのです。最後に見たのは確か１年前。元気でたくさん話してくれていたので、何も心配していませんでした。しかし今は寝たきりで、喋ることもままならない状況でした。実際に会ってその姿を見た時、悲しさで大泣きしたのを覚えています。その時の私は、大切な人が今まで通りの生活を送れなくなってしまう寂しさと、これからどうなってしまうのかという心配で胸がいっぱいでした。しかし、施設で実際にその手厚いケアと、落ちついて生活している姿を見て少し安心しました。

同時に、私は１つの疑問を持ちました。このような様々な設備が揃った大きな施設で、たくさんの介護スタッフなどに支えてもらうためにはどのくらいの費用が必要なのだろうか、と。施設に入った親戚の旦那さんの負担も心配でした。しかし調べてみると、そこには「税金」の存在が大きく関わっていることを知りました。

税金と聞いて、中学生の私達が思い浮かぶのは消費税くらいでしょう。これまでの私にとって税金は、義務であり、ニュースで政治家達が気難しそうに話しているのを見ていて、あまり良い印象は持っていませんでした。しかし調べてみると、税金には様々な使い道がありました。介護施設などでは、利用者がかかる

費用の全てを負担するわけではありません。その多くは、国や市町村、私達が普段納めている税金から出ていることを知りました。もし税金によるサポートがなければ、施設の利用費の全ての負担がかかり、多くの人が気軽に利用することができなくなってしまいます。私の親戚が安心してそこで生活できているのも、社会全体の税を納めるという仕組みがあったからこそなのだと感じ、税金への印象が大きく変わりました。税金は単なる義務ではなく、「困っている人の暮らしや命を守るために必要な大切な資金」なのだと実感しました。私達が普段何気なく納めていた税金や、たくさんの大人が毎日働いて納めている税金は巡り巡って私達の元へ帰ってくるのです。

これらのことから私は、税への興味が深まり、もっと学びたくなりました。税金を学び、大人になった時に、正しい知識でしっかり税金を納めたいと思います。そしていつか、その税金で私の大切な人の命が救われたように、どこかで困っている人の力になることを願っています。